

第 35 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 6 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 5 年 6 月 1 日 (木) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 403・404 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 佐藤 裕紀、小倉 壮平、角野 仁美、木村 いほ子、清水 隆太郎、司山 園美、 白神 道子、山岸 則子 平山 智康、竹田 暢美 計 10 名、 ※敬称略</p> <p>【事務局】 教育次長、地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、 生涯学習センター所長、生涯学習センター職員 4 名 計 9 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 職員自己紹介</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 令和 5 年度 一般会計予算について ○報告資料 1 に基づき、事務局が令和 5 年度一般会計予算について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 教育委員会の組織について ○報告資料 2 に基づき、事務局が教育委員会の組織について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(3) 令和 5 年度 社会教育関係予算について ○報告資料 3 に基づき、令和 5 年度社会教育関係予算について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(4) 社会教育委員会議開催日程及び各種大会日程について ○報告資料 4 に基づき、社会教育委員会議開催日程及び各種大会日程について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>4 意見交換</p> <p>(1) 県社会教育委員会議研究大会胎内大会の発表内容及び分担について ○事務局より県社会教育委員会議研究大会胎内大会の概要について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・昨年度の大会では、発表内容が各市の社会教育に関するものか、委員としての取り組みに関するものかの区別が明確でなかった。 ・新潟市の社会教育委員としての、実践や取り組みを発表することが望ましいのではないか。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市社会教育委員の取り組みを冒頭に伝え、その後に2つのグループの調査について報告するという流れが良い。 ・社会教育委員の役割は提言をまとめることであり、実践家ではない。提言を発表すべきではないか。 ・昨年度の大会では、社会教育委員の在り方について発表した市町村もあったため、社会教育委員の在り方を提案する方向も良いと思う。 ・社会教育委員が活動し、提言するだけでなく、社会教育行政と連携して問題提起できると良い。 ・社会教育委員として主体的に考え、2 グループに分けることで積極的に意見を発言できる環境を作ったことを発表するのが良いと思う。最後に副題を付けるとしたら、「主体的に考えて変わった社会教育委員」となるかもしれない。 <p>(2)各グループの調査研究活動について</p> <p>○各グループにて今後の調査研究活動について意見交換を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <p>○「こどもと若者の参画を促すネットワーク」グループ</p> <p><こどもの居場所について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者支援センター「オール」をもう少し充実させ、そのような場を各区に広げるべきであるという提言ができると思う。 ・一部地域では児童館の統廃合により、子どもたちが学区外の児童館に行かなければならない状況にある。 ・様々な人々が多様な活動場所を求めている。公民館や図書館、部活動がなくなる中学校などを活用して子どもの居場所を広げる必要がある。 ・部活動に参加しない中学生が日中に地域の高齢者を訪問したり、小学生とスポーツをしたり、小学生の学童保育へ行ってお世話をするのはどうか。 ・部活動をしない高校生が、図書館のような社会教育施設で、そこにいる人と一緒に過ごすだけでもいいと思う。 ・これらの活動を通して、ボランティア精神のある中高生が居場所を作ることができると思う。 <p><教育プログラムについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の職業体験を通じて放課後児童クラブや保育園への支援を行い、キャリア教育にも繋げるべき。 ・新潟市内のある高校では、高校生が子どもの居場所の運営を手伝う授業を導入し、実践的な活動を行うようだ。 ・中高生のこのような活動に伴う指導や必要な資格を取得できる仕組みを整備し、子どもと運営側の安心感を確保するべき。 ・総合学習のような教育プログラムを通じて、希望する子どもが「こどもの居場所づくり」につながる活動内容を自ら選べるようにするべき。 <p><社会教育委員としての取り組みについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な世代が交わる仕掛けや場所づくりを行政に頼るのではなく、まずは実験的な取り組みを我々新潟市社会教育委員で行ってみるのはどうか。 ・小さな工夫で、既存の公民館や図書館の雰囲気や機能を変えることができるのではないか。
--	--

<p>内 容</p>	<p>○「共生社会の実現に向けた学びの在り方と取組のネットワーク」グループ <現状の課題と行政の役割について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、障がいのある方に障がいに関する情報のみを届けるのではなく、社会教育や雇用などに関して必要とされる情報も届けることが大事である。 ・さらに、障がい者や外国籍の方へ横断的に情報を届け、それが社会教育施設や関係団体へも共有されることが大事である。 ・横のつながりを強化する、総合的な組織が必要とされている。 ・新潟市の教育ビジョンに、障がいのある方や外国籍の方の社会教育や学習機会に関する具体的内容を盛り込むべきである。 ・新潟市の各地区公民館や図書館の取り組みを把握し、評価やマネジメントを行う仕組みが新潟市に必要である。 <p><社会教育委員の役割について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身で情報交換の機会を設けることで、「障がい者基幹相談支援センター」や「発達障がい支援センター」等の障がい者を支援する機関に情報を伝える役割を果たす。 ・問いかけることや調査を行うことが重要であり、組織や施策について提言する役割を担う。 <p><公民館・図書館の役割について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の社会教育施設や情報を活用しながら、人々が繋がる場や機会を提供することが望ましい。 ・公民館の利用者が自ら仲間を集めて新しいサークルを作ることが理想であり、社会教育施設は人々をつなげる役割を果たすべきである。 ・多様な場や関わることができる場が各地に存在することが望ましい。 ・各地区公民館を利用する団体同士が市単位でつながる機会や交流の場があるのか、また発表会や活動の共有が行われているのかなどを知りたい。 <p>5 その他 ○第7回の会議について、令和5年7月20日（木）午後3時から5時までクロスパルにいがたで開催することを確認しました。</p> <p>6 閉会</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0名</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第35期新潟市社会教育委員会議（第6回）次第 ・報告資料1 令和5年度 一般会計予算について ・報告資料2 教育委員会の組織について ・報告資料3 令和5年度 社会教育関係予算について ・報告資料4 社会教育委員会議開催日程及び各種大会等日程について